



1月号 (No.10)

2026年1月8日

帝京大学小学校

帝京大学小学校だより

2026年の始まり

帝京大学小学校 校長 石井卓之

年明けには帝京大学関係のスポーツが例年数多く行われました。1月2日にはラグビーの大学選手権があり、帝京大学は早稲田大学に21-31で敗れ、連覇記録が4で止まりました。また、2日と3日には箱根駅伝が行われ、往路では17位と苦しい状況の中、復路は一斉スタート組となりました。私は、今年はシード権の獲得は無理だろうと思いながらも、レースを見守っていました。ところが、結果は9位まで巻き返してシード権を獲得することができました。これまで復路16位から9位まで巻き返してシード権を獲得した例はあるとのことでしたが、今回はそれを上回る快挙でした。中野監督が「本当にミラクル。学生の力ってすごいなって思いますね。今日は、4年生たちが自分たちがやってきたことは間違っていないことを証明してくれました。」と語っていた言葉がとても心に残りました。監督が掲げていた「世界一諦めの悪いチーム」という言葉も全チームで一番練習を積み重ねた結果であり、「粘り強さ」につながる素敵な言葉だと思いました。

求められる力の育成

経済産業省の未来人材ビジョン（令和4年5月）では、先行研究を元に「意識・行動面を含めた仕事に必要な能力等」を56項目に整理し2015年から2050年への需要の変化を示しています。企業が求める能力については調査機関や企業種別によって異なりますが、要素として挙がることが多いのはコミュニケーション能力、問題解決能力、主体性、チャレンジ精神、協調性、チームワーク力です。

2015年		2050年	
1	注意深さ・ミスがないこと	1	問題発見力
2	責任感・まじめさ	2	的確な予測
3	信頼感・誠実さ	3	革新性
4	基本技能(読み書き計算等)	4	的確な決定
5	スピード	5	情報収集
5	柔軟性	5	客観視
5	社会常識・マナー	7	コンピュータスキル
8	粘り強さ	8	言語スキル:口頭
8	基盤スキル	9	科学・技術
8	意欲・積極性	9	柔軟性

帝京大学小学校の「脱平均、キラッと光る個性の伸長」の方針の基に取り組んでいる5つの柱、①キャリア教育 ②里山教育 ③レゴ④教育(プログラミング) ④英語教育 ⑤ICT教育は、求められる能力の育成に根ざしたものとなっています。また、そのために必要な基礎・基本をしっかりと身につけさせるために、少人数指導や教科担任制を最大限に活用していきます。

今年も子どもたちが自分のよさを発揮して、「なりたい自分」になるための学びを、チーム帝京小として全力でサポートしていきます。

本年もよろしくお願ひいたします。

職員室の窓

5年生では起業家教育の一環での商品販売に向けて、一生懸命準備を進めています。いよいよ1月の授業公開での販売が近づき、子どもたちも「ちゃんと売れるかな?」と少し不安な顔も…。

さて、4、6年生の保護者の皆様には購入していただく機会が例年なかったため、今年度は予約販売をしたところ、たくさんの方にご購入いただきました。5年生が「売れた!」と実感をもって喜んでいる姿に、私も嬉しくなりました。なんと今年度は、わずかな数ではありますか、原宿でのイベントにも子どもたちの商品を置いていただけたことになりました。一般でどれだけ売れるかは未知数ですが、とても貴重な機会をいただいたと思います。たくさんの方々に支えられて子どもたちの「学び」は成り立っているのだと実感し、感謝する日々です。



《教諭 古野美香》